

# 「静岡と戦争」

～本土決戦態勢と県下の大空襲～

静岡県立中央図書館 歴史文化情報センター

# 「静岡と戦争」～本土決戦態勢と県下の大空襲～

「静岡と戦争」～本土決戦態勢と県下の大空襲～は、1941(昭和16)年の太平洋戦争勃発から1945(昭和20)年8月15日の終戦までを扱っています。

主な内容は、戦時中県下に配置された軍事施設、空襲と艦砲射撃による被害状況、県内出身の戦死者数についてです。かつて静岡県も戦場であったことが理解できるスライドを掲載しました。

戦争の実相を感じていただき、「戦争と平和」について、子どもたちと一緒に考えていただく一助となるようこの資料を作成しました。

なお、本文中にある市町村名のうち、合併により市町村名が変更されている場合は、旧市町村名のまま表記しました。

今回の資料作成にあたり、貴重な資料の公開許諾をいただいた方々に、心よりお礼を申し上げます。

# 帝 國 陸 海 軍 遂 に 英 米 軍 と 戦 端 を 開 く

## ハワイに大奇襲作戦

## ホノルル大空襲敢行

大本營海軍部發表八日午前六時 帝國陸、海軍は本八日未明西太平洋において米、英軍と戦闘状態に入れり

### 大本營海軍部公表

(八日午前十一時十分) 一、帝國海軍は本八日未明ハワイ方面のアメリカ艦隊並

びに航空兵力に對し大奇襲作戦に成功せり 二、帝國海軍は本八日未明上海においてイギリス砲艦ペトレルを撃沈せりまたアメリカ海軍ワーニクは對野戦兵に墜伏せり 三、帝國海軍は本八日未明シンガポールを襲撃して大なる損害を収めたり 四、帝國海軍は本八日未明ダバオ、ウエイク、グアムの敵軍事施設を襲撃せり

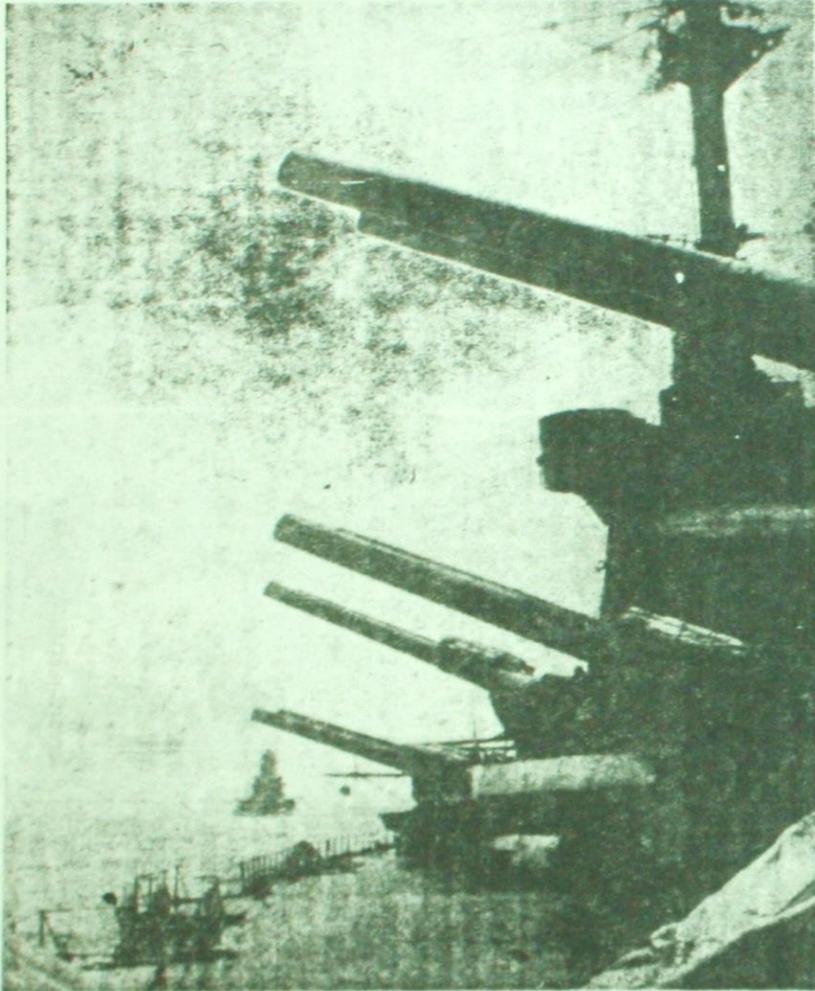
【ワシントン七日發】(同盟通信) 大統領官邸發表によれば日本空軍のハワイ・オアス島の被害は極めて甚大である

【ホノルル七日發】(同盟) 日本海軍航空隊爆撃隊はハワイ時間七日前七時卅五分(日本時間八日午前卅三時五分)ホノルルに初空襲を開始した

【ニューヨーク七日發】(同盟) ホノルルよりのNBC放送によれば日本軍のホノルル爆撃は猛烈を極めてゐる、然しアメリカ海軍は今なほ野戦兵を動かしてゐると、日本軍の空襲は三時間近く繼續してゐると傳へられる

## マレー半島奇襲上陸

大本營陸軍部八日午前十一時五十分發表 わが軍は陸軍艦隊なる行動の下に八日早朝マレー半島方面に奇襲上陸作戦を敢行し戦果を擴張中なり



嚴然米海軍を壓すわが艦隊 (海軍提供)

# 「本土決戦態勢一県下の軍事施設」

静岡県下には、平時編成の常置部隊として歩兵第三十四連隊(静岡)をはじめ、歩兵第六十七連隊(浜松)、野戦重砲兵第二・第三連隊(三島)、高射砲第一連隊(浜松)などが配備されていた。

満州事変以後はとくに航空関係施設が増強された。浜松陸軍飛行学校遠江射場などに次いで、太平洋戦争開戦後の1942(昭和17)年には、航空情報第一連隊(磐田)、航空航測第一連隊(浜松)、明野陸軍飛行学校天竜分教場(磐田)、海軍大井航空隊(榛原郡牧ノ原)が設けられた。さらに1944(昭和19)年には海軍藤枝航空隊や富士飛行場なども開設されている。

また、1945(昭和20)年には、静岡県下各地に本土決戦部隊が配置され、その兵員は58,800人以上に上る。他方、伊豆半島沿岸や清水市三保には、海軍特攻艇である「震洋」「海竜」の発進基地が設置されていた。

# 「本土決戦態勢 - 県下の軍事施設」【図説静岡県史256頁】

## 本土決戦態勢下の軍用地と軍用施設

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① 安倍川陸軍練兵場</li> <li>② 静岡陸軍作業場</li> <li>③ 静岡陸軍射撃場</li> <li>④ 第24練成飛行隊(浜松陸軍北飛行場)<br/>第1航測連隊<br/>各務原航空廠浜松分廠工員宿舍</li> <li>⑤ 浜松陸軍射撃場<br/>高射砲隊照空陣地<br/>浜松陸軍軍用水道給水場</li> <li>⑥ 三方原射撃場及飛行場<br/>浜松陸軍演習廠舎<br/>第7航空教育隊</li> <li>⑦ 陸軍第1技術研究所新津試験所</li> <li>⑧ 浜松陸軍演習廠舎</li> <li>⑨ 高射砲隊海岸射撃場</li> <li>⑩ 浜松陸軍飛行学校及浜松飛行場(南飛行場)</li> <li>⑪ 浜松飛行学校付属三角地帯</li> <li>⑫ 沼津海軍工廠</li> <li>⑬ 沼津海軍防空砲台</li> <li>⑭ 第2海軍技術廠音響兵器部下香貫本部</li> <li>⑮ 名古屋造兵廠駿河製造所</li> <li>⑯ 陸軍重砲兵学校三保分教場<br/>清水海軍航空隊</li> <li>⑰ 横須賀海軍通信学校草薙実習所</li> <li>⑱ 三島陸軍射撃場</li> <li>⑲ 三島陸軍屯在部隊演習地</li> <li>⑳ 三島陸軍屯在部隊演習地</li> <li>㉑ 三島陸軍屯在部隊演習地</li> <li>㉒ 三島陸軍基地</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>㉓ 陸軍少年戦車兵学校<br/>西富士演習場及廠舎<br/>陸軍少年戦車兵学校上水道<br/>陸軍少年戦車兵学校職員上井出宿舍<br/>東海軍管区経理部大宮出張所</li> <li>㉔ 富士飛行場</li> <li>㉕ 第1航空情報連隊大藤演習場</li> <li>㉖ 第1航空情報連隊磐田小銃射撃場</li> <li>㉗ 富士裾野演習場</li> <li>㉘ 第1航空情報連隊神増原演習廠舎</li> <li>㉙ 二俣架橋演習倉庫</li> <li>㉚ 陸軍重砲兵学校富士分教所演習用地</li> <li>㉛ 三島陸軍屯在部隊演習地</li> <li>㉜ 海軍施設本部野外実験所<br/>沼津海軍工作学校</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>㉝ 三島陸軍練兵場<br/>第2海軍技術廠下土狩事務所<br/>三島陸軍屯在部隊演習地</li> <li>㉞ 藤枝海軍航空隊</li> <li>㉟ 遠江射場</li> <li>㊱ 御前崎防備隊</li> <li>㊲ 大井海軍航空隊</li> <li>㊳ 第2海軍技術廠牛尾施設</li> <li>㊴ 第1航空情報連隊横須賀廠舎</li> <li>㊵ 第1航空情報連隊上浅羽演習場</li> <li>㊶ 天竜陸軍飛行場</li> <li>㊷ 第1航空情報連隊</li> <li>㊸ 第1航空情報連隊上神増演習場</li> <li>㊹ 浜名海兵团横須賀海軍施設部新居分遣隊<br/>及単独宿舍</li> </ul> |
|--|---|--|



県下の軍事施設

# 海底から引き揚げられた「海竜」【熱海市立図書館所蔵資料】



# 「卜一チ力」 浜松市東区半田町に残る防御施設



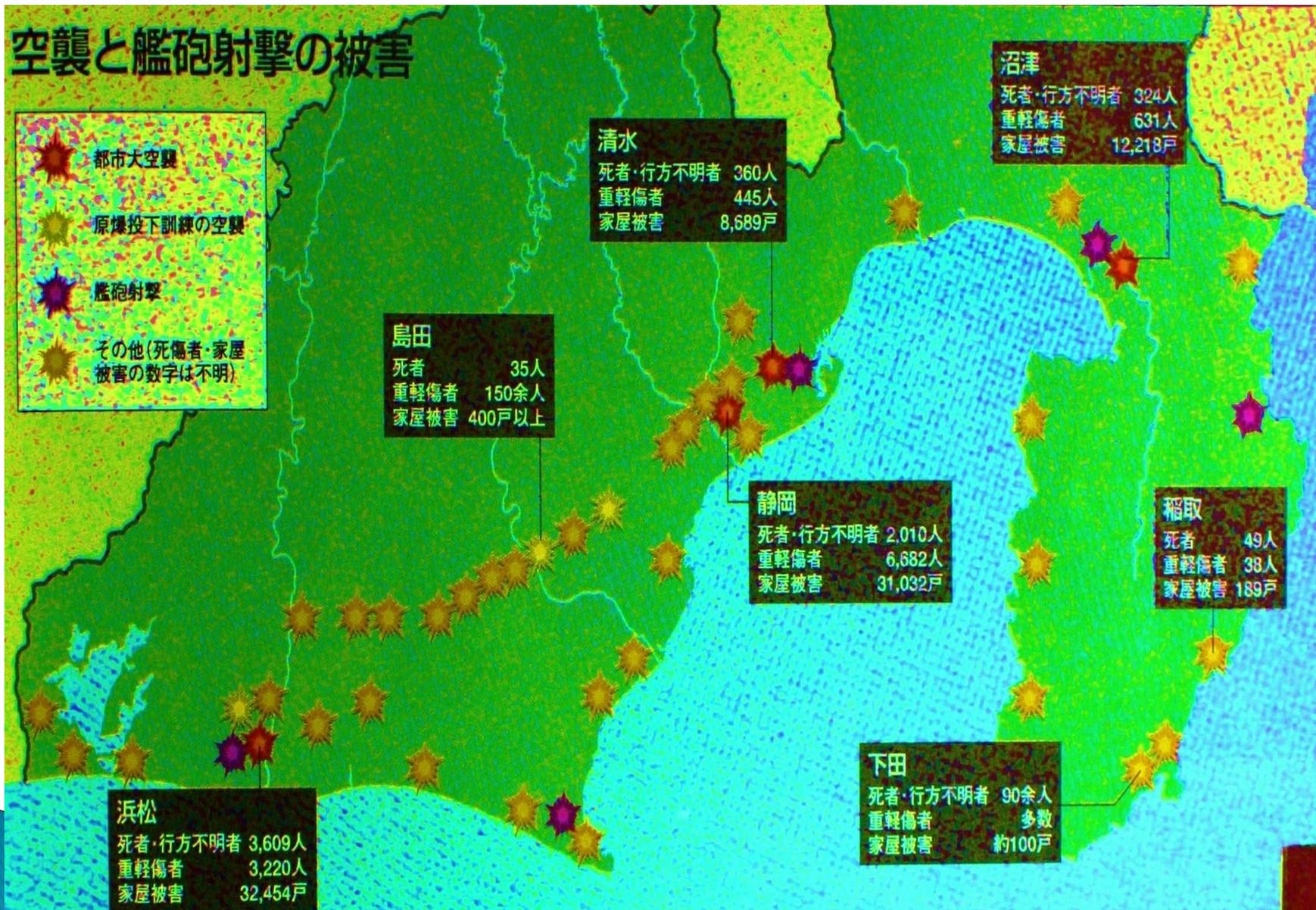
# 「大空襲・艦砲射撃 1945年 夏」

静岡県下各地の空襲は、1944(昭和19)年に始まり、敗戦まで続いた。空襲回数は数百回に上り、爆弾一万発以上、焼夷弾二十万発以上が県民の頭上に降り注がれた。

その被害は調査報告書により異なるが、戦後の経済安定部の調べによると死者6,473人、重軽症者9,818人、被害家屋93,958戸である。静岡県が調べた1944年11月5日から1945年7月17日の戦争の罹災者数341,819人は、200万県民の約6分の1にあたる。

1945(昭和20)年4月以降軍需工場を目標に本格化した空襲は、浜松市を中心に大きな被害を与えた。東京・大阪など大都市空襲を終えた6月、地方中都市に対する無差別爆撃が開始された。浜松市(6月18日)、静岡市(6月20日)、清水市(7月7日)、沼津市(7月17日)の市街地が相次いで一夜にして焼け野原となった。7月29日夜、浜松市と新居町が艦砲射撃を受け、31日には清水市も襲撃された。海からの攻撃も始まったのである。

# 「静岡県下の大空襲 1945年 夏」 空襲と艦砲射撃の被害 【図説静岡県史254頁】





「清水の艦砲射撃」 すさまじい閃光を見た 鈴木富夫  
【静岡平和資料センター所蔵資料】



「警報告知板」【静岡平和資料センター所蔵資料】



「烈しくなる空襲」 昭和20年4月19日 【佐々木古櫻 戦中画日記 6】





「沼津大空襲後 焼け野原となる」【佐々木古櫻 戦中画日記 9】



「沼津大空襲後の市街地」【沼津市明治史料館所蔵資料】



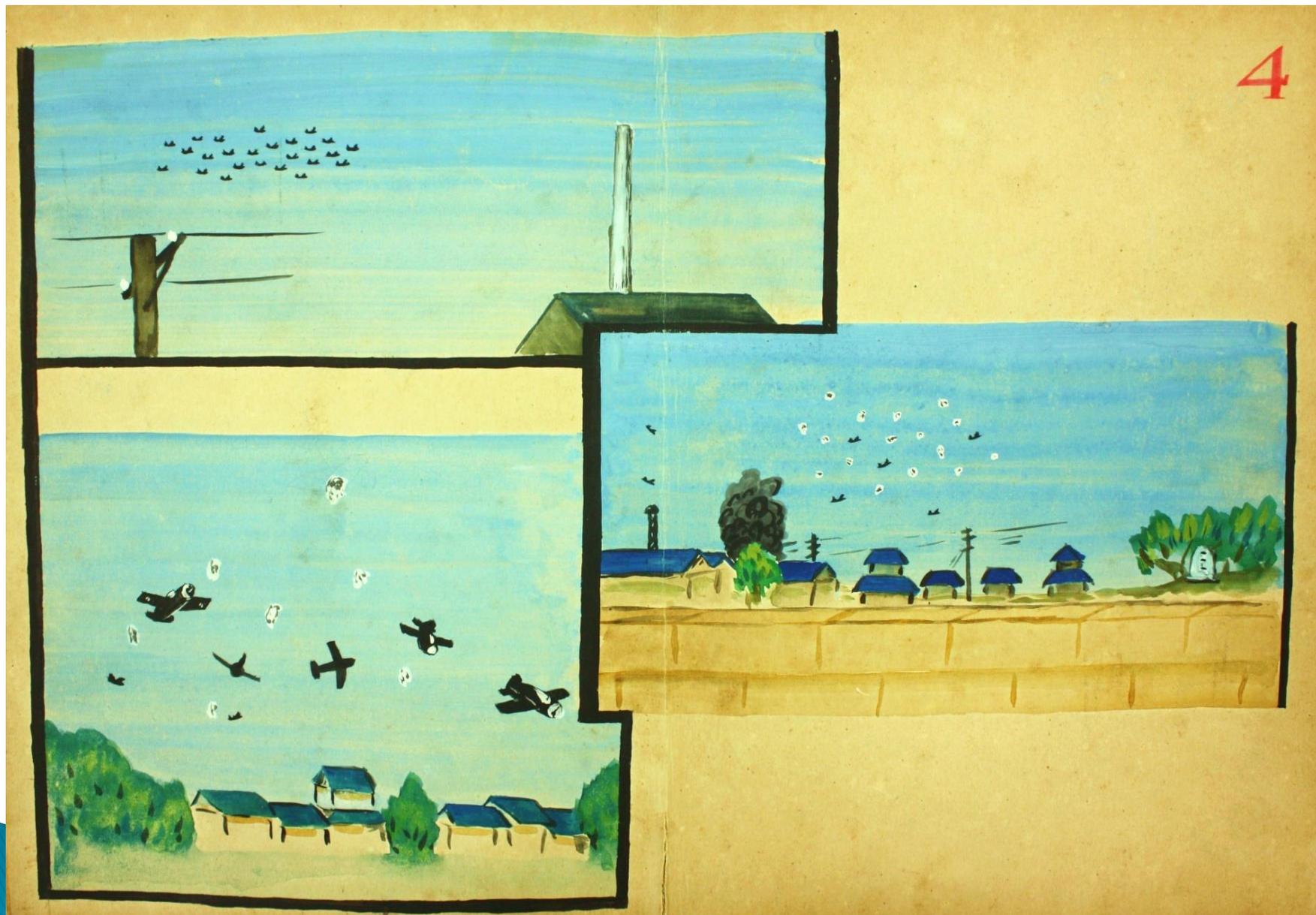
「浜松 空中戦でB29撃墜」【浜松市立中央図書館所蔵資料】

浜松上空における空中戦で、日本軍の飛行機により撃墜されるB29（昭和二十年一月二十三日）



「浜松 敵機来襲」【浜松市立中央図書館所蔵資料】

4



# 「浜松 楊子橋(ようずばし)に残る弾痕」【歴史文化情報センター所蔵資料】



「浜松大空襲 炎上する浜松市街」 【浜松市立中央図書館所蔵資料】



「戦災後の浜松中心部」【浜松復興記念館所蔵資料】



# 「投下された焼夷弾の残骸」【静岡平和資料センター所蔵資料】



並べた M19 油脂焼夷弾 38 本つづの M19  
単体焼夷弾 M69

「B29跳梁」 遠藤龍彦(当時14歳 東草深)  
【静岡平和資料センター所蔵資料】



「東になって落ちる焼夷弾」 滝 正臣(当時8歳 秋山町)  
【静岡平和資料センター所蔵資料】



「静岡が燃える」 久保田光亭(当時45歳 両替町)  
【静岡平和資料センター所蔵資料】



「逃げまどう」 芹沢きよ(当時22歳 北番町)  
【静岡平和資料センター所蔵資料】



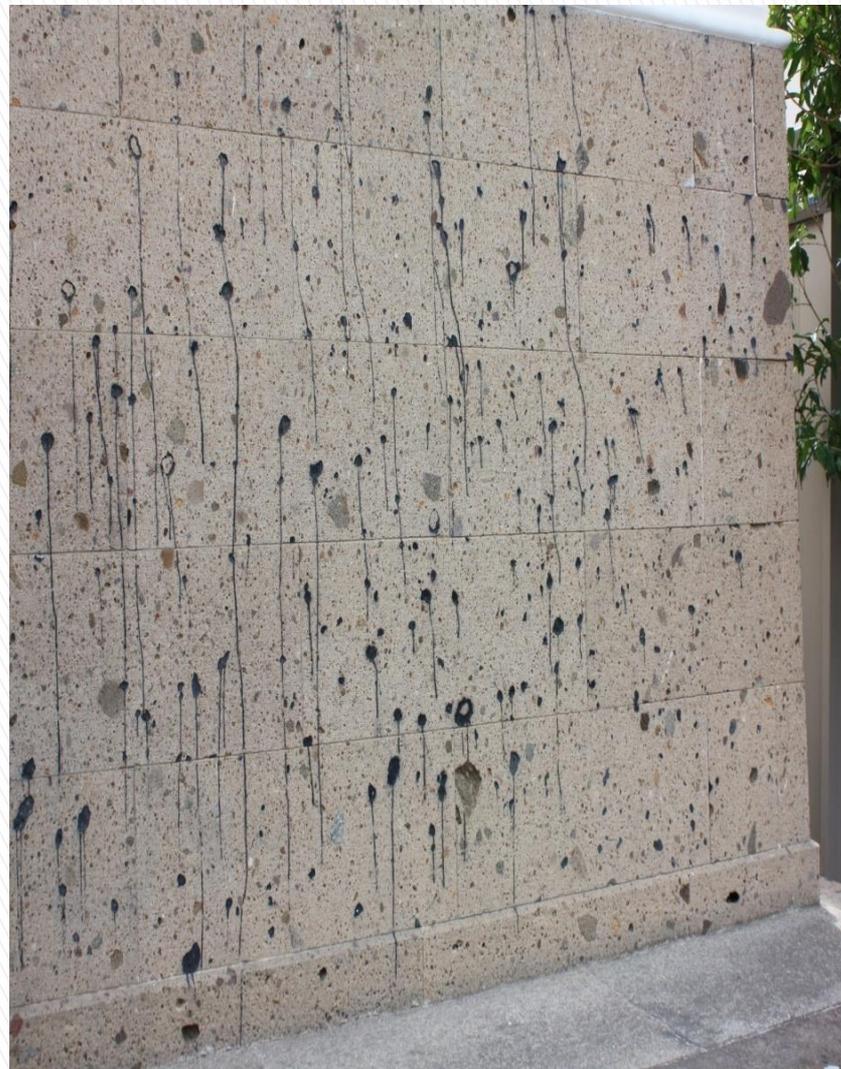
「静岡大空襲後の市街地」【個人所蔵資料】



「焼け残った不去来庵」静岡市葵区 【歴史文化情報センター所蔵資料】



「不去来庵」(持仏堂)



「阿弥陀如来の涙」(持仏堂北壁)

# 「復興のシンボルツリー」【歴史文化情報センター所蔵資料】



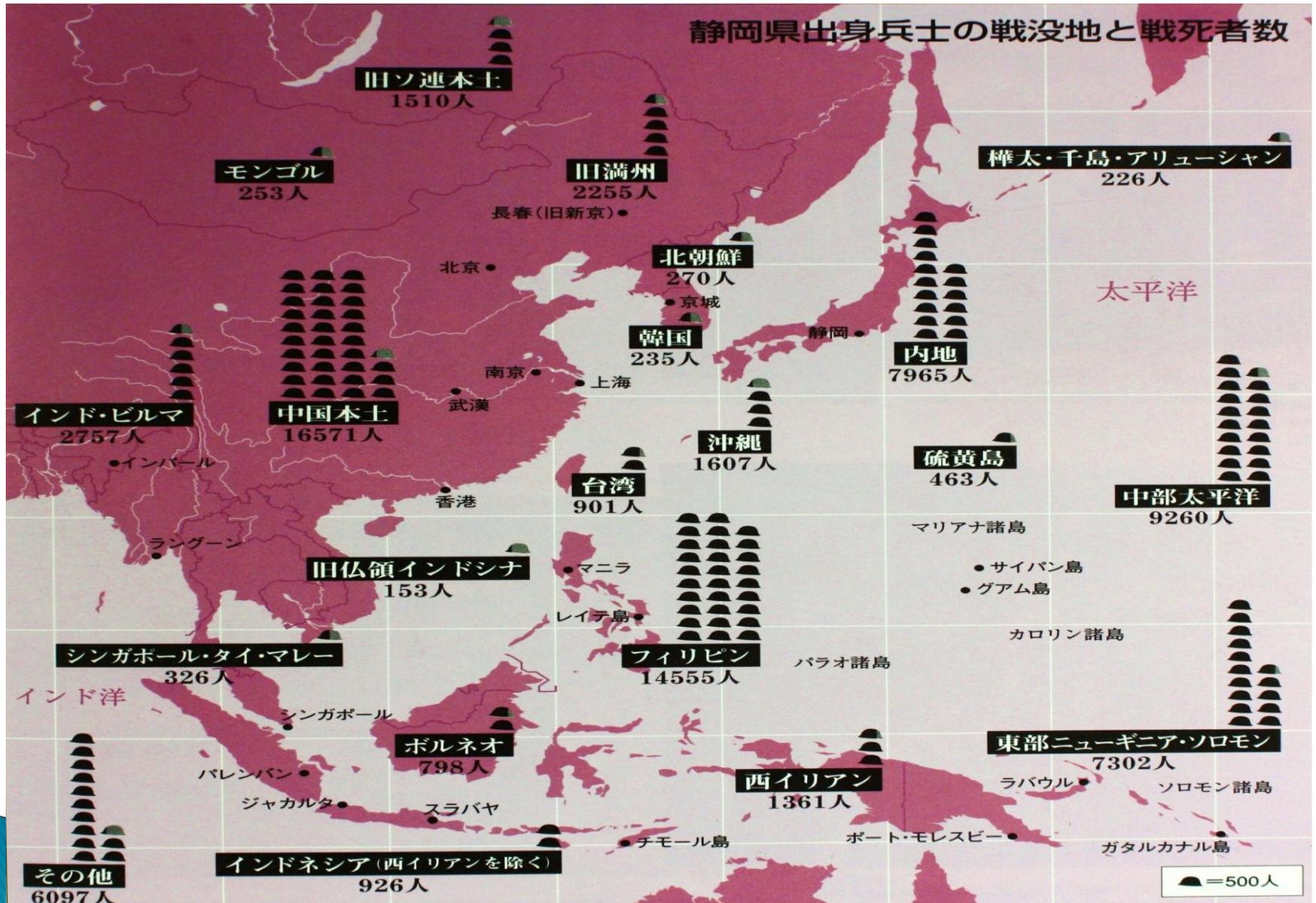
静岡市 「日赤病院前クスノキ」



浜松駅前 「プラタナスの木」



# 「十五年戦争の犠牲者 静岡県出身兵士の戦没地と戦死者数」 【図説静岡県史246頁】



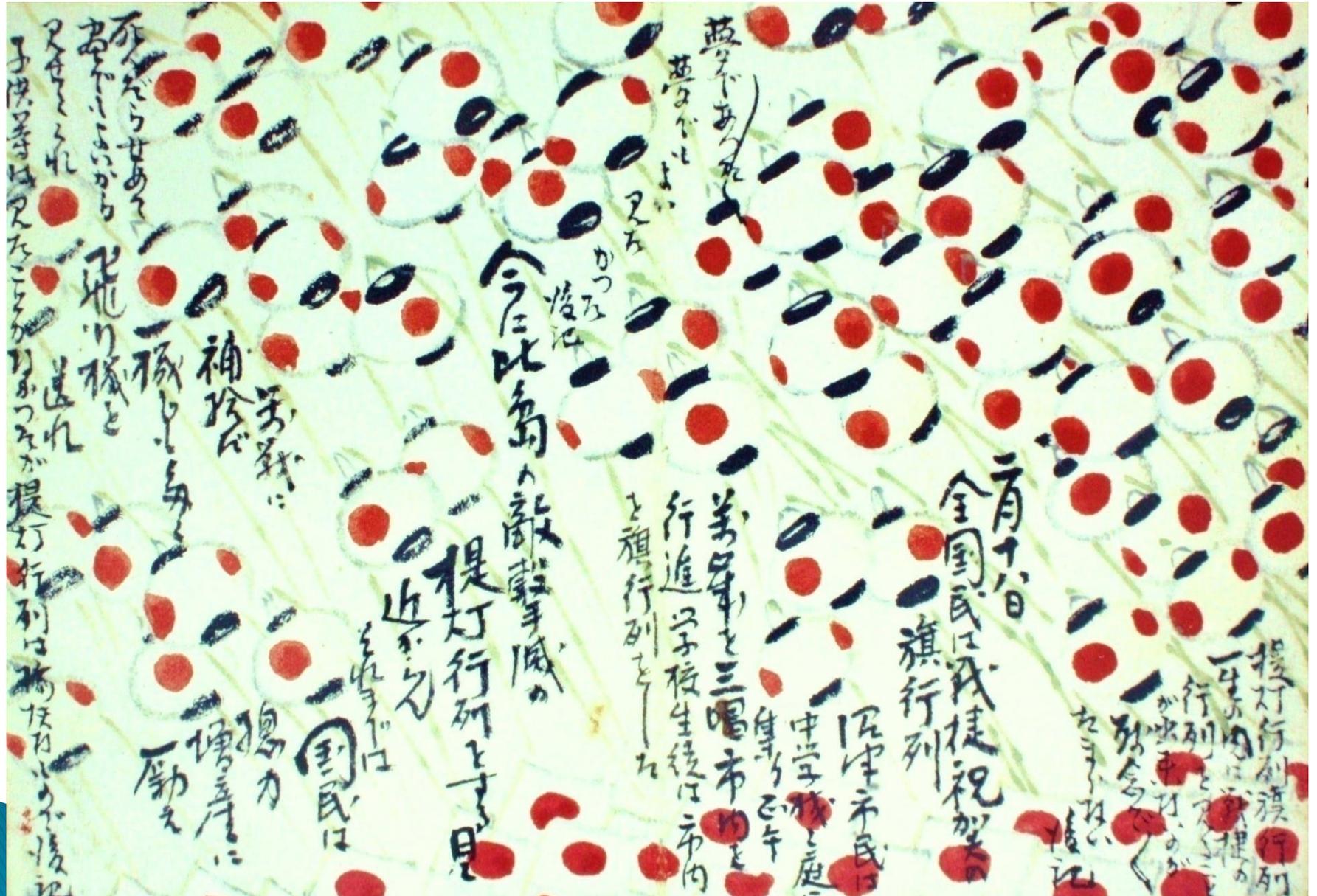
# 「菊川地域の戦争による犠牲者」【『菊川町史』近現代通史編】

表7-2 菊川町の戦(病)死者の状況

人口・世帯数は1940年国勢調査による

	人口計	男	女	世帯数	各地の戦死者数	戦死者の割合	世帯数比
堀之内町	4,314	2,132	2,182	854	137	6.42%	16
六郷村	4,091	2,027	2,064	745	177	8.73%	23.8
加茂村	1,458	709	749	273	62	8.74%	22.7
内田村	2,794	1,383	1,411	465	107	7.73%	23
横地村	1,716	889	827	290	80	9.00%	27.6
河城村	4,708	2,388	2,320	808	174	7.29%	21.5
合計	19,081	9,528	9,553	3,435	737	7.73%	21.5

「戦捷の提灯行列・旗行列」【佐々木古櫻 戦中画便り】



## 研究の手引き(参考資料)

- ▶ 『静岡県史』通史編6 近現代二
  - 「第1編 満州事変期の地域社会と経済発展」
  - 「第2編 翼賛政治と戦時統制」
- ▶ 『図説 静岡県史』第5章 近代
  - 24 大空襲 一九四五年夏
  - 25 本土決戦態勢 県下の軍事施設
- ▶ 「太平洋戦争開戦を伝える記事」 『静岡新聞』静岡県立中央図書館
- ▶ 「海から引き揚げられた海竜」 熱海市立図書館
- ▶ 「トーチカ」 歴史文化情報センター
- ▶ 『静岡県の戦争遺跡を歩く』 静岡新聞社
- ▶ 「浜松艦砲射撃の新聞記事」 中日新聞社
- ▶ 「清水の艦砲射撃」 静岡平和資料センター
- ▶ 『ハルマの戦争―清水艦砲射撃』 渡邊晴郎 著
- ▶ 「警報告知板」 静岡平和資料センター

## 研究の手引き(参考資料)

- ▶ 『佐々木古櫻 戦中画日記』 沼津市歴史民俗資料館
- ▶ 『佐々木古櫻 戦中画便り』 沼津市歴史民俗資料館
- ▶ 「沼津大空襲」 沼津市明治史料館
- ▶ 「浜松 空中戦でB29撃墜」 浜松市立中央図書館
- ▶ 「浜松 敵機来襲」 浜松市立中央図書館
- ▶ 「浜松 楊子橋に残る弾痕」 歴史文化情報センター
- ▶ 「浜松大空襲 炎上する浜松市街」 浜松市立中央図書館
- ▶ 「浜松大空襲後の市街地」 浜松復興記念館
- ▶ 「投下された焼夷弾の残骸」 静岡平和資料センター
- ▶ 「B29 跳梁」 静岡平和資料センター
- ▶ 「東になって落ちる焼夷弾」 静岡平和資料センター
- ▶ 「静岡が燃える」 静岡平和資料センター
- ▶ 「逃げまどう」 静岡平和資料センター
- ▶ 「静岡大空襲」 個人所蔵

## 研究の手引き(参考資料)

- ▶ 「焼け残った不去来庵」 歴史文化情報センター
- ▶ 「復興のシンボルツリー」 歴史文化情報センター
- ▶ 「ポツダム宣言受諾を伝える記事」 『静岡新聞』静岡県立中央図書館
- ▶ 『菊川町史』 近現代通史編 菊川町史編さん委員会
- ▶ 『浜松大空襲 戦争はいらない』 元城校十九年会編集委員会
- ▶ 『わたしのえにつき 戦時下の浜松にて』 清野泰子 著
- ▶ 『日本史大事典』 平凡社
- ▶ 『国史大事典』 吉川弘文館